

リベラルアーツ講演会を開催

米子高専での学びに、幅広い視野や自由な発想を加え、学生たちがより伸長できるように、外部講師を招へいして講演会を開催しています。

今年度は、科学史・科学哲学を専門にされている東京理科大学の愼 蒼健教授(教養教育研究院・院長)に「科学史の現代的意義とは何だろうか」と題して講演していただきました。

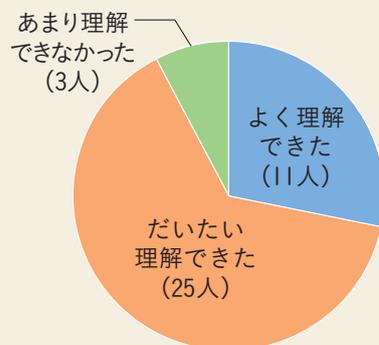
12月22日(木)に3年物質工学科の学生がオンラインで聴講しました。その感想から、学生たちは既知の常識を大いに揺さぶられたようです。



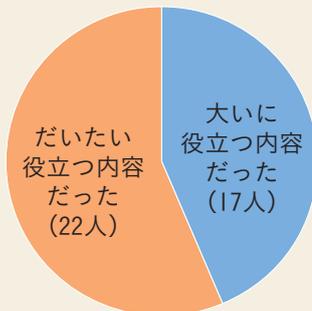
学生の感想(抜粋)

- ・天動説から地動説へ変わる話で、教科書で習った時代よりも前から地動説はあったということを知らなかったのが、印象に残っている。
- ・地動説を提唱したのはコペルニクスだと思っていたが、最初に提唱したのは他の人ということが分かった。
- ・天動説と地動説が並行して考えられていたことは初めて知った。私たちは表面上しか見えていなかったのだなと思った。
- ・歴史を見る時、前から後で結果しか見ていなかったけれど、前から後になるまでに結果は行ったり来たりしているということに気づかされた。歴史は実際に起こったことであるので、もっとストーリーに興味を持って学んでいきたいと思った。
- ・自分たちが中学・高校で学んでいることは一方面から見た単発の出来事であるが、今回の話では多方面に物事をつなげて見ることで理解しやすかったし面白かった。
- ・予想外の視点から見ると納得できることがたくさんあり、視点を変えて見ることの重要性を学べたとても有意義な時間だと感じた。
- ・科学者や文学者は自分と比べていろんな意味でかけ離れている方々と思っていたが、講演のスライドに「対話相手」と書かれていて、深いなあー、そういう考え方もあると思い、感心した。
- ・女性差別があった時代にも女性の哲学者や医師がいたというのは驚いた。時代の流れは教科書に書かれているような単純なものではないと気づかされた。
- ・“女性の科学者”を問われた時にあまり思いつかなかったが、私が思っていた以上にたくさんいるということに驚いた。ヒュパティアについてももう少し自分で調べてみようと思う。
- ・科学と哲学はあまり関係なさそうという勝手な印象があったが、むしろ密接くらいな感じだったのが意外だった。
- ・高専で学んでいるとどうしても専門のことに重きを置いてしまうが、専門の外についても学ぶことは重要だと聞き、他の勉強も大切にしたいと思った。

アンケートでは、講演内容が「理解できた」と回答した学生が92.3%、「役立つ内容だった」と回答した学生が100%でした。



内容は理解できたか？



内容は役に立ちそうか？

また、〈リベラルアーツ特別講演〉として、地球環境やエネルギーについて問題意識を高め、自ら考えてもらうため、外部講師による授業を下記のように3年の4クラスで行いました。

①12月9日（金）3年電子制御工学科	(株)ユニバーサルエネルギー研究所 金田 武司氏
②12月14日（水）3年電気情報工学科	チームEEE（エネルギー環境教育実践チーム） 幸 浩子氏
③12月14日（水）3年建築学科	
④12月16日（金）3年機械工学科	原子力発電環境整備機構 富森 卓氏・真壁 佳代氏



「対話型鑑賞」を実施（「コレクション宅配便」事業）

鳥取県立博物館が所蔵している美術品を県内の学校に持ってきていただき、それら本物の作品を、みんながそれぞれ感じたままを声に出してじっくり鑑賞する（「対話型鑑賞」と呼ばれています）「コレクション宅配便」という事業を本校も利用しました。

今年度は2回実施しました（昨年度は1回）。1回目は、10月14日（金）に3年電子制御工学科の学生を対象に、2回目は、12月8日（木）に4年生の選択科目（社会科学Ⅲ）の中で行いました。両日とも、授業終了後も展示して他の学生・教職員にも自由に鑑賞してもらいました。

図書館の1階と2階に、1回目は7点、2回目は4点の版画作品・彫刻・工芸作品が並べられ、数人ずつのグループに分かれてローテーションで鑑賞しました。県立博物館美術振興課のスタッフの方たちがファシリテータを務め、学生たちは思い思いに感じたことや考えたことを言い合いました。

10月14日の様子



12月8日の様子



図書館には、米子市出身の田村憲二氏の絵画が多数展示してあります。そのうち、「大山(春)」（1階ロビー）、「大山(秋)」（2階ロビー）などもあわせて鑑賞しました。閲覧室にある高価な椅子にも座ってみました。

学生の感想（抜粋）

- ・普段、美術作品に触れる機会がないので新鮮だった。
- ・友達といろいろ見て回れて楽しかった。ちょっと美術館に行きたくなった。
- ・美術は考え方に正解がないので、想像力が豊かになる良い経験だった。
- ・絵を見て初めて楽しいという感覚になった。
- ・自分の中でお気に入りの作品を見つけることができて楽しかった。
- ・美術作品を見ることは楽しかったし、大人数で感想や意見を出し合いながら作品を考察することができて良かった。
- ・タイトルを知らない状態で見ると、いろいろなものが見えてきて面白かった。
- ・図書館に飾ってあるものもじっくり見ることができて良かった。
- ・様々な意見を聞くことができて楽しかった。自分の意見を人に伝える能力をもっと身につけたいと思った。

皆さんもどうぞ図書館や校内に飾られている絵画や美術工芸品に触れ、感性を磨いてみてください。

「KOSENフォーラム」 オーガナイズドセッションを開催

国立高専機構による令和4年度のKOSENフォーラム（KOSENフォーラム2022：9月5日・6日）において、本校はオーガナイズドセッションで「高専図書館のあり方を考えるーリベラルアーツの視点から」を企画し、オンライン（Microsoft Teams）で9月5日（月）に開催しました。

図書館長・リベラルアーツセンター長（加藤）の趣旨説明の後、基調講演を筑波大学図書館情報メディア系講師の大庭一郎先生にいただきました。演題は、「高等専門学校図書館の基本機能：学生の研究力を支えるリベラルアーツの育成」で、トピックスとして、高専図書館の研究、特徴、歴史、論点、サービス（悉皆調査の結果）、高専図書館を支える組織、学生の研究力を支えるリベラルアーツの育成、高専図書館のサービスの構成要素、課題について取り上げられました。

それを受けた質疑・意見交換では、松江や茨城などの高専から発言がありました。高専図書館とリベラルアーツなどについて考える良い機会とすることができました。

【趣 旨】

高専は、教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備え、専任の職員や設備を備えるものと設置基準に規定されている。インターネットが普及し、デジタル化が進む中で、図書館の位置づけ・役割や機能も見直しが求められているのではないかと、学生の図書館離れは進んでいないだろうか。

本校ではリベラルアーツ教育を推進しているが、図書館を活用して学生たちが読書などを通じて、世界観や倫理観を獲得し、価値観を創造し、自ら学ぶ態度を養ってくれるようにするにはどうしたらよいか。

高専図書館とリベラルアーツなどについて考えていきたい。

【これまでの本校のオーガナイズドセッションのテーマ】

2020年度：「高専リベラルアーツ教育の方向性を探る」

2021年度：「高専教育におけるリベラルアーツの具体化の方途ー理念・カリキュラム・組織」

◎図書館に、「リベラルアーツ」コーナーを設け、リベラルアーツに関連する図書も購入していますので、ご利用ください。

共催イベント

「ビブリオバトル2022」(図書館)

今年度は、「高専祭」の中のイベントとして11月3日（木・祝）にロータリーステージで開催しました。出場者（バトル）は7名（3年生・5名、1年生・2名）でした。

出場した学生の感想を紹介します。「今年のビブリオバトルは高専祭で行われたので、例年よりも多くの人に聞いてもらえてうれしかったです。今回、自分の趣味と絡めて楽しく紹介文を書くことができたし、より多くの人前で話す練習にもなったので良かったです。他に紹介されていた本も小説だけではなく、いろいろなジャンルがあって面白かったです。」

他の学生の感想も含めて詳細は、『としょぶらり』115号（2022年12月発行）をご覧ください。



「とっとりサイエンスワールド2022」 (米子高専数学・科学振興会)

小・中学生を対象に、算数・数学パズルや科学実験などを通じて算数・数学・科学の面白さを体感してもらおうと、西部地区（米子市児童文化センター）で8月20日（土）に、東部地区（とりぎん文化会館）で8月28日（日）にそれぞれ開催し、参加者は78名と69名で好評でした。



編集後記

今年度実施したリベラルアーツセンターの事業をまとめました。昨年度から延期していたリベラルアーツ講演会を開催したり、特別講演を対面で行ったりできました。とっとりサイエンスワールドも今年度は開催されました。対話型鑑賞は昨年度に続いて今年度も県立博物館のご協力で行うことができました。KOSENフォーラム・オーガナイズドセッションは図書館と絡めたテーマ・内容で企画してみました。本校図書館報『としょぶらり』も併せて読んでいただくと幸いです。

昨年度の編集後記を見ると、「新型コロナの「第6波」の只中にあり」と書いておりました。現在は、「第8波」のピークが過ぎたとみられ、政府は今月13日より、コロナ感染対策におけるマスク着用は個人の判断に委ねるとしています。コロナで変容した社会をどのようにとらえ、新たな価値を見出し再構築していくかーリベラルアーツの力も問われているように思います。

私は、リベラルアーツセンター設立時より副センター長、そして昨年度からはセンター長として関わらせていただきましたが、今年度でその任を終えることとなりました。お世話になりました。多くの方々のご協力を得て、センターの運営に携わることができましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。
(リベラルアーツセンター長 加藤 博和)